

平成 22 年度 長崎大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

平成 22 年 2 月 25 日

- 教育・薬・工・歯学部は, [1] ~ [4] 数 I・II・III・A・B (120 分)
- 経済・水産・環境科学部は, [1], [2] 数 I・II・A・B (80 分)
- 医学部は, [3], [5] ~ [7] 数 I・II・III・A・B (120 分)

[1] a, b は実数で, $a > 1$ とする. t の関数

$$f(t) = 2t^3 - 3(a+1)t^2 + 6at + b$$

について, 次の問いに答えよ.

- (1) 関数 $f(t)$ の極値を, a, b を用いて表せ.
- (2) a の値を x 座標, b の値を y 座標とする xy 平面上の点 $P(a, b)$ を考える. このとき, 3 次方程式 $f(t) = 0$ が相異なる 3 つの実数解をもつような点 $P(a, b)$ の存在する領域 D を xy 平面上に図示せよ.
- (3) D および D の境界からなる領域を E とする. 領域 E のうち,

$$y \leq -x^2 + 4x - 11$$

を満たす部分の面積を求めよ.

[2] 正三角形 ABC において, 線分 AB を $2:1$ に内分する点を D , 線分 BC の中点を E , 点 E から直線 AB に引いた垂線と AB の交点を H とする. また, $\overrightarrow{HB} = \vec{a}$, $\overrightarrow{HE} = \vec{b}$ とする. 次の問いに答えよ.

- (1) \overrightarrow{AB} , \overrightarrow{AH} , \overrightarrow{DB} を \vec{a} を用いて表せ.
- (2) \overrightarrow{CD} を \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ.
- (3) 線分 HE 上の点 F が $\overrightarrow{AF} \perp \overrightarrow{CD}$ を満たすとき, F は線分 EH を $2:1$ に内分することを示せ.

[3] $\angle A = \frac{\pi}{2}$, $\angle B = \alpha$ である $\triangle ABC$ を考える. $\triangle ABC$ の外接円の半径を R とする. この外接円上の点 P が, 点 A を含まない弧 BC 上を動くものとする. $\angle BAP = \theta$ ($0 < \theta < \frac{\pi}{2}$) とするとき, 次の問いに答えよ.

- (1) $\triangle ABP$ の面積の最大値を R, α を用いて表せ.
- (2) $\triangle BPC$ の面積を R, θ を用いて表せ.
- (3) $\alpha = \frac{\pi}{3}$ とする. $\triangle ABP$ と $\triangle BPC$ の面積の和 S の最大値を求めよ.

4 a を $a > 1$ を満たす定数とする. 原点 O と点 $P(1, 0)$ を線分で結び, 点 P と点 $Q(a, \log a)$ を曲線 $y = \log x$ で結ぶ. このようにして得られる曲線 OPQ を, y 軸の周りに 1 回転させてできる立体の容器を考える. ただし, OP を含む部分を底面として, 水平に置くものとする. 次の問いに答えよ.

- (1) この容器の容積 V を a を用いて表せ.
- (2) m を正の定数とする. この容器に, 単位時間あたり m の水を一定の割合で注ぎ入れる. ただし, 最初は水が全く入っていない状態とする. 注ぎ始めてから時間 t ($0 < t < \frac{V}{m}$) が経過したとき, 底面から水面までの高さを h , 水面の上昇する速度を v とする. h および v を m, t を用いて表せ.

5 a, b を $a > b > 0$ を満たす定数とし,

$$\begin{cases} a_1 = a, & a_{n+1} = a_n^2 + b_n^2 & (n = 1, 2, 3, \dots) \\ b_1 = b, & b_{n+1} = 2a_n b_n & (n = 1, 2, 3, \dots) \end{cases}$$

で定義される数列 $\{a_n\}, \{b_n\}$ を考える. 次の問いに答えよ.

- (1) 数列 $\{c_n\}$ を $c_n = a_n + b_n$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) により定義するとき, その一般項 c_n を a, b を用いて表せ.
- (2) 数列 $\{a_n\}, \{b_n\}$ の一般項 a_n, b_n を a, b を用いて表せ.
- (3) 極限值 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{b_n}{a_n}$ が存在するかどうかを調べ, 存在する場合はその値を求めよ.
- (4) 無限級数 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ が収束するとき, $a + b < 1$ が成り立つことを証明せよ.

6 xyz 空間において, 底面の半径が 2, 高さが 4 である直円柱

$$\begin{cases} x^2 + y^2 \leq 4 \\ 0 \leq z \leq 4 \end{cases}$$

を考える. この円柱内で, さらに

$$\begin{cases} z \leq (x-2)^2 \\ z \leq y^2 \end{cases}$$

を満たす点 (x, y, z) からなる立体を V とする. 次の問いに答えよ.

- (1) 立体 V を平面 $x = t$ ($-2 \leq t \leq 2$) で切った切り口の面積を $A(t)$ とする. $A(t)$ を t を用いて表せ.
- (2) 立体 V の体積を求めよ.

7 4次方程式の解について、次の問いに答えよ。ただし、右のことは既知としてよい。

自然数 k, l, m が次の条件
(イ) k と l は 1 以外の約数をもたない
(ロ) k は lm の約数である。
を満たすならば、 k は m の約数である。

(1) a, b, c, d は整数で、 $d \neq 0$ とする。次の方程式

$$x^4 + ax^3 + bx^2 + cx + d = 0$$

が有理数の解 r をもつとき、 $|r|$ は自然数であり、かつ $|d|$ の約数に限ることを証明せよ。

(2) 次の方程式

$$2x^4 - 2x - 1 = 0$$

の実数解はすべて無理数であることを証明せよ。

正解

1 (1) $f(t) = 2t^3 - 3(a+1)t^2 + 6at + b$ より

$$f'(t) = 6t^2 - 6(a+1)t + 6a = 6(t-1)(t-a)$$

$a > 1$ より, $f(t)$ の増減表は, 次のようになる.

x	...	1	...	a	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	$3a+b-1$	↘	$-a^3+3a^2+b$	↘

よって $t=1$ のとき極大値 $3a+b-1$,
 $t=a$ のとき極小値 $-a^3+3a^2+b$

(2) 方程式 $f(t) = 0$ が相異なる 3 つの実数解をもつのは, (1) の結果から

$$-a^3 + 3a^2 + b < 0 < 3a + b - 1 \quad \text{すなわち} \quad \begin{cases} b > -3a + 1 \\ b < a^3 - 3a^2 \end{cases}$$

である ($a > 1$). xy 平面上の点 $P(a, b)$ の存在する領域 D を表す不等式は

$$x > 1, \quad y > -3x + 1, \quad y < x^3 - 3x^2$$

ここで, $y = -3x + 1 \dots \textcircled{1}$, $y = x^3 - 3x^2 \dots \textcircled{2}$ とおくと, $\textcircled{2}$ から

$$y' = 3x^2 - 6x = 3x(x-2)$$

これから, $\textcircled{2}$ の増減表, 次のようになる.

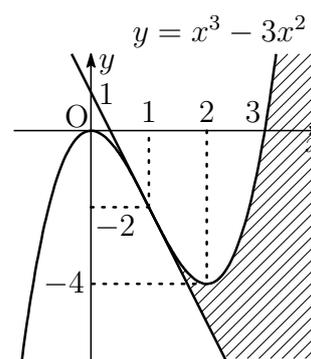
x	...	0	...	2	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	0	↘	-4	↗

$\textcircled{1}$, $\textcircled{2}$ から y を消去すると

$$x^3 - 3x^2 = -3x + 1$$

$$(x-1)^3 = 0$$

$$x = 1 \quad (3 \text{ 重解})$$



ゆえに $\textcircled{1}$, $\textcircled{2}$ の共有点は $(1, -2)$

よって, D の表す領域は右の図の斜線部分で,
境界線を含まない.

$$(3) \quad y = -x^2 + 4x - 11 \quad \cdots \textcircled{3}$$

$$= -(x-2)^2 - 7$$

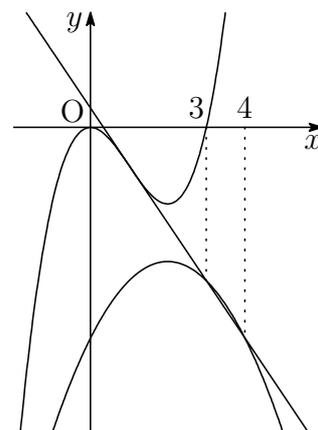
ゆえに、 $x > 1$ において、 $\textcircled{2}$ と $\textcircled{3}$ の共有点はない。 $\textcircled{1}$ と $\textcircled{3}$ の共有点の x 座標は

$$-3x + 1 = -x^2 + 4x - 11$$

$$(x-3)(x-4) = 0$$

$$x = 3, 4$$

よって、求める面積を S とすると



$$S = \int_3^4 \{(-x^2 + 4x - 11) - (-3x + 1)\} dx$$

$$= - \int_3^4 (x-3)(x-4) dx$$

$$= - \left(-\frac{1}{6} \right) (4-3)^3 = \frac{1}{6}$$

解説 関数 $g(t) = t^3 + pt + q$ を微分すると $g'(t) = 3t^2 + p$

i) $p \geq 0$ のとき、 $g(t)$ は単調増加である。

このとき、3次方程式 $g(t) = 0$ の実数解の個数は1個。

ii) $p < 0$ のとき、 $p = -3k^2$ とおくと ($k > 0$)

$$g'(t) = 3t^2 - 3k^2 = 3(t+k)(t-k)$$

$g(t)$ は、極大値 $g(-k) = 2k^3 + q$ 、極小値 $g(k) = -2k^3 + q$ をとるから、3次方程式 $g(t) = 0$ の実数解の個数は

$-2k^3 + q < 0 < 2k^3 + q$	すなわち	$ q < 2k^3$ のとき	3個
$-2k^3 + q = 0, 2k^3 + q = 0$	すなわち	$ q = 2k^3$ のとき	2個
$2k^3 + q < 0, -2k^3 + q > 0$	すなわち	$ q > 2k^3$ のとき	1個

3次方程式 $ax^3 + bx^2 + cx + d = 0 \cdots (*)$ は, $x = t - \frac{b}{3a}$ とおくと

$$t^3 - \frac{b^2 - 3ac}{3a^2}t + \frac{2b^3 - 9abc + 27a^2d}{27a^3} = 0$$

となる. したがって, 3次方程式 (*) の実数解の個数は

i) $b^2 - 3ac \leq 0$ のとき 1 個

ii) $b^2 - 3ac > 0$ のとき

$$k = \frac{\sqrt{b^2 - 3ac}}{3|a|}, \quad q = \frac{2b^3 - 9abc + 27a^2d}{27a^3}$$

であるから

$$\left| \frac{2b^3 - 9abc + 27a^2d}{27a^3} \right| < 2 \left(\frac{\sqrt{b^2 - 3ac}}{3|a|} \right)^3$$

すなわち $|2b^3 - 9abc + 27a^2d| < 2(b^2 - 3ac)^{\frac{3}{2}}$ のとき 3 個

同様に $|2b^3 - 9abc + 27a^2d| = 2(b^2 - 3ac)^{\frac{3}{2}}$ のとき 2 個

$|2b^3 - 9abc + 27a^2d| > 2(b^2 - 3ac)^{\frac{3}{2}}$ のとき 1 個

3次方程式 (*) について

$$D_1 = b^2 - 3ac, \quad D_2 = 2b^3 - 9abc + 27a^2d$$

とおくと, 3次方程式 (*) の実数解の個数は

$D_1 \leq 0$ のとき 1 個

$D_1 > 0, |D_2| < 2D_1^{\frac{3}{2}}$ のとき 3 個

$D_1 > 0, |D_2| = 2D_1^{\frac{3}{2}}$ のとき 2 個

$D_1 > 0, |D_2| > 2D_1^{\frac{3}{2}}$ のとき 1 個

3次方程式 $2t^3 - 3(a+1)t^2 + 6at + b = 0$ について ($a > 1$)

$$D_1 = 9(a-1)^2 > 0, \quad D_2 = 54(-a^3 + 3a^2 + 3a - 1 + 2b)$$

よって, この3次方程式が異なる3つの実数解をもつとき, $|D_2| < 2D_1^{\frac{3}{2}}$ より

$$|54(-a^3 + 3a^2 + 3a - 1 + 2b)| < 2\{9(a-1)^2\}^{\frac{3}{2}}$$

$$|-a^3 + 3a^2 + 3a - 1 + 2b| < (a-1)^3$$

$$-(a-1)^3 < -a^3 + 3a^2 + 3a - 1 + 2b < (a-1)^3$$

$$-3a + 1 < b < a^3 - 3a^2$$

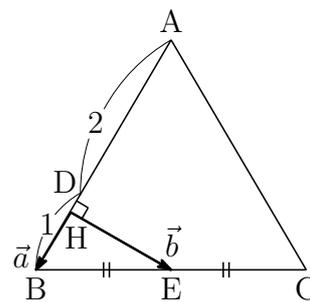
2 (1) $BE = 2HB$, $AB = BC = 2BE$ であるから

$$AB = 4HB, \quad AH = 3HB, \quad DB = \frac{1}{3}AB \text{ より}$$

$$\overrightarrow{AB} = 4\overrightarrow{HB} = 4\vec{a}$$

$$\overrightarrow{AH} = 3\overrightarrow{HB} = 3\vec{a}$$

$$\overrightarrow{DB} = \frac{1}{3}\overrightarrow{AB} = \frac{1}{3} \cdot 4\vec{a} = \frac{4}{3}\vec{a}$$



$$\begin{aligned} (2) \quad \overrightarrow{CD} &= \overrightarrow{CB} + \overrightarrow{BD} = 2\overrightarrow{EB} - \overrightarrow{DB} \\ &= 2(\vec{a} - \vec{b}) - \frac{4}{3}\vec{a} = \frac{2}{3}\vec{a} - 2\vec{b} \end{aligned}$$

(3) F は線分 HE 上の点であるから, $\overrightarrow{HF} = t\vec{b}$ とおくと ($0 \leq t \leq 1$)

$$\overrightarrow{AF} = \overrightarrow{AH} + \overrightarrow{HF} = 3\vec{a} + t\vec{b}$$

$\vec{a} \cdot \vec{b} = 0$, $|\vec{b}| = \sqrt{3}|\vec{a}|$ であるから

$$\begin{aligned} \overrightarrow{AF} \cdot \overrightarrow{CD} &= (3\vec{a} + t\vec{b}) \cdot \left(\frac{2}{3}\vec{a} - 2\vec{b} \right) \\ &= 2|\vec{a}|^2 + \left(\frac{2}{3}t - 6 \right) \vec{a} \cdot \vec{b} - 2t|\vec{b}|^2 \\ &= 2|\vec{a}|^2 - 6t|\vec{a}|^2 = 2(1 - 3t)|\vec{a}|^2 \end{aligned}$$

$\overrightarrow{AF} \perp \overrightarrow{CD}$ より, $\overrightarrow{AF} \cdot \overrightarrow{CD} = 0$ であるから $t = \frac{1}{3}$

ゆえに $HF : FE = \frac{1}{3} : \frac{2}{3} = 1 : 2$

よって, F は線分 EH を 2 : 1 に内分する.

3 (1) 右の図から

$$AB = BC \cos \alpha = 2R \cos \alpha$$

正弦定理により

$$\frac{BP}{\sin \theta} = 2R \quad \text{ゆえに} \quad BP = 2R \sin \theta$$

$$\angle CBP = \angle CAP = \frac{\pi}{2} - \theta \text{ より}$$

$$\angle ABP = \angle ABC + \angle CBP = \alpha + \left(\frac{\pi}{2} - \theta\right)$$

したがって

$$\begin{aligned} \Delta ABP &= \frac{1}{2} AB \cdot BP \sin \angle ABP \\ &= \frac{1}{2} \cdot 2R \cos \alpha \cdot 2R \sin \theta \sin \left(\frac{\pi}{2} - \theta + \alpha\right) \\ &= 2R^2 \cos \alpha \sin \theta \cos(\theta - \alpha) \\ &= R^2 \cos \alpha \{\sin(2\theta - \alpha) + \sin \alpha\} \quad \dots (*) \end{aligned}$$

$$0 < \alpha < \frac{\pi}{2}, \quad 0 < \theta < \frac{\pi}{2} \text{ より} \quad -\frac{\pi}{2} < 2\theta - \alpha < \pi \text{ であるから}$$

よって $2\theta - \alpha = \frac{\pi}{2}$ のとき, (*) は, 最大値 $R^2 \cos \alpha (1 + \sin \alpha)$ をとる.

別解 右の図のように, 線分 AB に平行な直線 l と円との接点を P とするとき, ΔABP の面積は最大となる. このとき, P から線分 AB に垂線 PH を引くと, 円の中心 O は線分 PH 上にあり, H は線分 AB の中点である. したがって

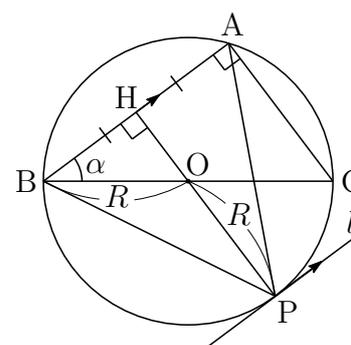
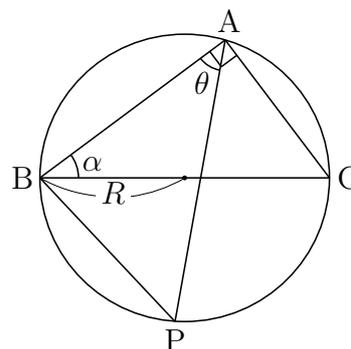
$$BH = R \cos \alpha, \quad OH = R \sin \alpha,$$

$$AB = 2BH = 2R \cos \alpha,$$

$$PH = PO + OH = R(1 + \sin \alpha)$$

よって, 求める ΔABP の最大値は

$$\begin{aligned} \Delta ABP &= \frac{1}{2} AB \cdot PH \\ &= \frac{1}{2} \cdot 2R \cos \alpha \cdot R(1 + \sin \alpha) = R^2 \cos \alpha (1 + \sin \alpha) \end{aligned}$$



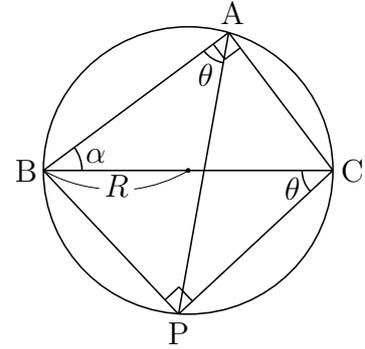
(2) $\angle BCP = \angle BAP = \theta$, $\angle BPC = \frac{\pi}{2}$ より

$$BP = BC \sin \theta = 2R \sin \theta$$

$$CP = BC \cos \theta = 2R \cos \theta$$

したがって

$$\begin{aligned} \triangle BPC &= \frac{1}{2} BP \cdot CP \\ &= \frac{1}{2} \cdot 2R \sin \theta \cdot 2R \cos \theta \\ &= 2R^2 \sin \theta \cos \theta = \mathbf{R^2 \sin 2\theta} \end{aligned}$$



(3) $\alpha = \frac{\pi}{3}$ を (*) に代入すると

$$\begin{aligned} \triangle ABP &= R^2 \cos \frac{\pi}{3} \left\{ \sin \left(2\theta - \frac{\pi}{3} \right) + \sin \frac{\pi}{3} \right\} \\ &= \frac{1}{2} R^2 \left(\sin 2\theta \cos \frac{\pi}{3} - \cos 2\theta \sin \frac{\pi}{3} + \frac{\sqrt{3}}{2} \right) \\ &= R^2 \left(\frac{1}{4} \sin 2\theta - \frac{\sqrt{3}}{4} \cos 2\theta + \frac{\sqrt{3}}{4} \right) \end{aligned}$$

上式および (2) の結果から

$$\begin{aligned} S &= \triangle ABP + \triangle BPC \\ &= R^2 \left(\frac{5}{4} \sin 2\theta - \frac{\sqrt{3}}{4} \cos 2\theta \right) + \frac{\sqrt{3}}{4} R^2 \\ &= \frac{2\sqrt{7}}{4} R^2 \left(\frac{5}{2\sqrt{7}} \sin 2\theta - \frac{\sqrt{3}}{2\sqrt{7}} \cos 2\theta \right) + \frac{\sqrt{3}}{4} R^2 \end{aligned}$$

ここで, $\cos \beta = \frac{5}{2\sqrt{7}}$, $\sin \beta = \frac{\sqrt{3}}{2\sqrt{7}}$ とおくと $(0 < \beta < \frac{\pi}{2})$

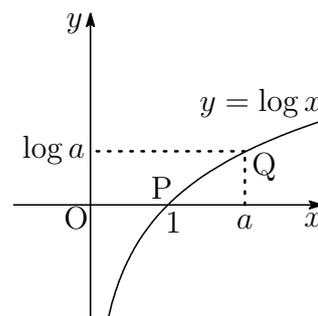
$$S = \frac{2\sqrt{7}}{4} R^2 \sin(2\theta - \beta) + \frac{\sqrt{3}}{4} R^2$$

$0 < \beta < \frac{\pi}{2}$, $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ より $-\frac{\pi}{2} < 2\theta - \beta < \pi$ であるから

よって $2\theta - \beta = \frac{\pi}{2}$ のとき, S は, 最大値 $\frac{1}{4}(2\sqrt{7} + \sqrt{3})R^2$ をとる.

4 (1) $y = \log x$ より $x = e^y$ であるから

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_0^{\log a} x^2 dy \\ &= \pi \int_0^{\log a} e^{2y} dy \\ &= \frac{\pi}{2} \left[e^{2y} \right]_0^{\log a} = \frac{\pi}{2} (a^2 - 1) \end{aligned}$$



(2) 条件および (1) の結果から

$$mt = \frac{\pi}{2} (a^2 - 1) \quad \text{ゆえに} \quad a^2 = \frac{2mt}{\pi} + 1$$

また, $h = \log a$ であるから, 上式から

$$h = \log a = \frac{1}{2} \log a^2 = \frac{1}{2} \log \left(\frac{2mt}{\pi} + 1 \right)$$

これを t で微分すると

$$\begin{aligned} v &= \frac{dh}{dt} = \frac{d}{dt} \left\{ \frac{1}{2} \log \left(\frac{2mt}{\pi} + 1 \right) \right\} \\ &= \frac{1}{2} \times \frac{\frac{2m}{\pi}}{\frac{2mt}{\pi} + 1} = \frac{m}{2mt + \pi} \end{aligned}$$

5 (1) $a_{n+1} = a_n^2 + b_n^2 \quad \dots \textcircled{1}$

$$b_{n+1} = 2a_n b_n \quad \dots \textcircled{2}$$

① と ② の辺々を加えると

$$a_{n+1} + b_{n+1} = (a_n^2 + b_n^2) + 2a_n b_n = (a_n + b_n)^2$$

$$c_n = a_n + b_n \quad \text{より} \quad c_{n+1} = c_n^2$$

$$\text{よって} \quad c_n = c_1^{2^{n-1}} = (a_1 + b_1)^{2^{n-1}} = (a + b)^{2^{n-1}}$$

解説 $c_{n+1} = c_n^2$ より $\log c_{n+1} = 2 \log c_n$

$$\text{したがって} \quad \log c_n = 2^{n-1} \log c_1 = \log c_1^{2^{n-1}}$$

$$\text{よって} \quad c_n = c_1^{2^{n-1}} = (a + b)^{2^{n-1}}$$

(2) (1) の結果から $a_n + b_n = (a + b)^{2^{n-1}} \dots \textcircled{3}$

①, ② から

$$a_{n+1} - b_{n+1} = (a_n^2 + b_n^2) - 2a_nb_n = (a_n - b_n)^2$$

したがって $a_n - b_n = (a - b)^{2^{n-1}} \dots \textcircled{4}$

③, ④ から $a_n = \frac{1}{2}\{(a + b)^{2^{n-1}} + (a - b)^{2^{n-1}}\}$

$$b_n = \frac{1}{2}\{(a + b)^{2^{n-1}} - (a - b)^{2^{n-1}}\}$$

(3) (2) の結果から

$$\frac{b_n}{a_n} = \frac{(a + b)^{2^{n-1}} - (a - b)^{2^{n-1}}}{(a + b)^{2^{n-1}} + (a - b)^{2^{n-1}}} = \frac{1 - \left(\frac{a - b}{a + b}\right)^{2^{n-1}}}{1 + \left(\frac{a - b}{a + b}\right)^{2^{n-1}}}$$

$a > b > 0$ より $0 < \frac{a - b}{a + b} < 1$ ゆえに $\lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{a - b}{a + b}\right)^{2^{n-1}} = 0 \dots \textcircled{5}$

したがって, 極限值 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{b_n}{a_n}$ は存在して

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{b_n}{a_n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1 - \left(\frac{a - b}{a + b}\right)^{2^{n-1}}}{1 + \left(\frac{a - b}{a + b}\right)^{2^{n-1}}} = 1$$

(4) (2) の結果から

$$\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{2}(a + b)^{2^{n-1}} \left\{ 1 + \left(\frac{a - b}{a + b}\right)^{2^{n-1}} \right\}$$

⑤ に注意すると

$$a + b > 1 \text{ のとき} \quad \lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \infty$$

$$a + b = 1 \text{ のとき} \quad \lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \frac{1}{2}$$

$$a + b < 1 \text{ のとき} \quad \lim_{n \rightarrow \infty} a_n = 0$$

$\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = 0$ は, 無限級数 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ が収束するための必要条件であるから,

無限級数 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ が収束するとき, $a + b < 1$ が成り立つ.

解説 一般に、 $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = 0$ は、無限級数 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ が収束するための必要条件である。

つまり、 $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = 0$ であっても、無限級数 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ が発散することがある。

例えば、 $a_n = \frac{1}{n}$ を一般項とする数列 $\{a_n\}$ は

$$\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} = 0$$

であるが

$$\begin{aligned} \sum_{n=1}^{\infty} a_n &= 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \cdots \\ &= 1 + \frac{1}{2} + \left(\frac{1}{3} + \frac{1}{4}\right) + \left(\frac{1}{5} + \frac{1}{6} + \frac{1}{7} + \frac{1}{8}\right) + \cdots \\ &> 1 + \frac{1}{2^1} + \left(\frac{1}{2^2} + \frac{1}{2^2}\right) + \left(\frac{1}{2^3} + \frac{1}{2^3} + \frac{1}{2^3} + \frac{1}{2^3}\right) + \cdots \\ &= 1 + \sum_{n=1}^{\infty} \left(\overbrace{\frac{1}{2^n} + \cdots + \frac{1}{2^n}}^{2^{n-1} \text{個}}\right) = 1 + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{2} = \infty \end{aligned}$$

したがって $\sum_{n=1}^{\infty} a_n = \infty$

6 (1) $x = t$ のとき, $x^2 + y^2 = 4$ から

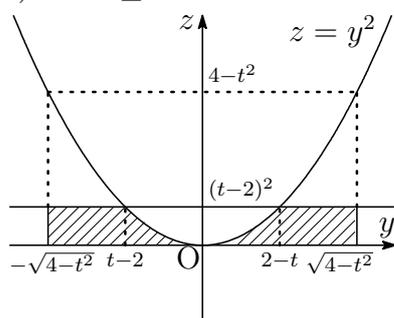
$$y^2 = 4 - t^2 \quad \dots \textcircled{1} \quad (-2 \leq t \leq 2)$$

$x = t$ のとき, $z \leq (x - 2)^2$, $z \leq y^2$ は ① および z の範囲に注意して

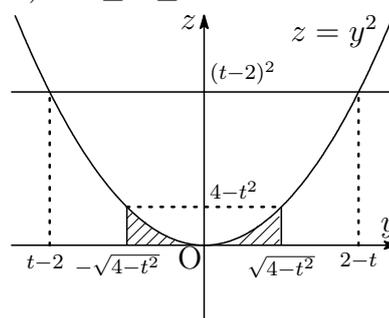
$$z \geq 0, \quad z \leq (t - 2)^2, \quad z \leq y^2 \leq 4 - t^2$$

したがって, 平面 $x = t$ ($-2 \leq t \leq 2$) で切った図形は次のようになる.

i) $0 < t \leq 2$ のとき



ii) $-2 \leq t \leq 0$ のとき



i) $4 - t^2 > (t - 2)^2$ すなわち $0 < t \leq 2$ のとき

$$\begin{aligned} \frac{1}{2}A(t) &= \int_0^{2-t} y^2 dy + \{\sqrt{4-t^2} - (2-t)\}(t-2)^2 \\ &= \left[\frac{y^3}{3} \right]_0^{2-t} + (t-2)^2 \sqrt{4-t^2} + (t-2)^3 \\ &= (t-2)^2 \sqrt{4-t^2} + \frac{2}{3}(t-2)^3 \end{aligned}$$

ii) $4 - t^2 \leq (t - 2)^2$ すなわち $-2 \leq t \leq 0$ のとき

$$\frac{1}{2}A(t) = \int_0^{\sqrt{4-t^2}} y^2 dy = \left[\frac{y^3}{3} \right]_0^{\sqrt{4-t^2}} = \frac{1}{3}(4-t^2)^{\frac{3}{2}}$$

$$\text{よって } A(t) = \begin{cases} 2(t-2)^2 \sqrt{4-t^2} + \frac{4}{3}(t-2)^3 & (0 < t \leq 2) \\ \frac{2}{3}(4-t^2)^{\frac{3}{2}} & (-2 \leq t \leq 0) \end{cases}$$

(2) (1) の結果から

$$\begin{aligned}
 \int_0^2 A(t) dt &= \int_0^2 \left\{ 2(t-2)^2 \sqrt{4-t^2} + \frac{4}{3}(t-2)^3 \right\} dt \\
 &= \int_0^2 \{-2(4-t^2) - 8t + 16\} \sqrt{4-t^2} dt + \frac{1}{3} \left[(t-2)^4 \right]_0^2 \\
 &= -2 \int_0^2 (4-t^2)^{\frac{3}{2}} dt - 8 \int_0^2 t \sqrt{4-t^2} dt + 16 \int_0^2 \sqrt{4-t^2} dt - \frac{16}{3} \\
 &= -2 \int_0^2 (4-t^2)^{\frac{3}{2}} dt + \frac{8}{3} \left[(4-t^2)^{\frac{3}{2}} \right]_0^2 + 16 \times \frac{1}{4} \cdot \pi \cdot 2^2 - \frac{16}{3} \\
 &= -2 \int_0^2 (4-t^2)^{\frac{3}{2}} dt + 16\pi - \frac{80}{3}
 \end{aligned}$$

$$\int_{-2}^0 A(t) dt = \int_{-2}^0 \frac{2}{3} (4-t^2)^{\frac{3}{2}} dt = \frac{2}{3} \int_0^2 (4-t^2)^{\frac{3}{2}} dt$$

$$\begin{aligned}
 \text{したがって} \quad V &= \int_{-2}^0 A(t) dt + \int_0^2 A(t) dt \\
 &= -\frac{4}{3} \int_0^2 (4-t^2)^{\frac{3}{2}} dt + 16\pi - \frac{80}{3}
 \end{aligned}$$

ここで、 $I = \int_0^2 (4-t^2)^{\frac{3}{2}} dt$ とおくと

$$\begin{aligned}
 I &= \left[t(4-t^2)^{\frac{3}{2}} \right]_0^2 - \int_0^2 t \cdot (-3t)(4-t^2)^{\frac{1}{2}} dt \\
 &= 0 - 3 \int_0^2 \{(4-t^2) - 4\} (4-t^2)^{\frac{1}{2}} dt \\
 &= -3 \int_0^2 (4-t^2)^{\frac{3}{2}} dt + 12 \int_0^2 \sqrt{4-t^2} dt \\
 &= -3I + 12 \times \frac{1}{4} \cdot \pi \cdot 2^2
 \end{aligned}$$

これを解いて $I = 3\pi$

$$\begin{aligned}
 \text{よって} \quad V &= -\frac{4}{3}I + 16\pi - \frac{80}{3} \\
 &= -\frac{4}{3} \cdot 3\pi + 16\pi - \frac{80}{3} = 12\pi - \frac{80}{3}
 \end{aligned}$$

- 7 (1) a, b, c, d を整数 ($d \neq 0$) とする 4 次方程式

$$x^4 + ax^3 + bx^2 + cx + d = 0 \quad \dots (*)$$

の有理数の解 r は 0 ではないので, 整数 p, q を用いて ($p \neq 0$)

$$r = \frac{p}{q} \quad (p, q \text{ は互いに素})$$

と表すことができる. これを (*) に代入すると

$$\left(\frac{p}{q}\right)^4 + a\left(\frac{p}{q}\right)^3 + b\left(\frac{p}{q}\right)^2 + c\left(\frac{p}{q}\right) + d = 0$$

$$\text{したがって} \quad ap^3 + bp^2q + cpq^2 + dq^3 = -\frac{p^4}{q}$$

上式から, $-\frac{p^4}{q}$ が整数である. p, q は互いに素であるから $q = 1$

よって, 解 r は整数であるから ($r \neq 0$)

$$r^4 + ar^3 + br^2 + cr + d = 0 \quad \text{ゆえに} \quad r^3 + ar^2 + br + c = -\frac{d}{r}$$

上式から, $-\frac{d}{r}$ は整数であるから, r は d の約数である.

以上のことから, $|r|$ は整数であり, かつ $|d|$ の約数に限る.

- (2) 方程式 $2x^4 - 2x - 1 = 0$ の解は 0 ではないので, 有理数の解 α ($\alpha \neq 0$) をもつと仮定すると

$$2\alpha^4 - 2\alpha - 1 = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \left(\frac{1}{\alpha}\right)^4 + 2\left(\frac{1}{\alpha}\right)^3 - 2 = 0$$

上式より, 方程式

$$t^4 + 2t^3 - 2 = 0 \quad \dots (**)$$

が有理数の解 $\frac{1}{\alpha}$ をもつ.

このとき, (1) の結論から, その有理数の解は, $|-2|$ の約数になるが, $t = \pm 1, \pm 2$ は (**) の解ではないので, 矛盾を生じる.

よって, 方程式 $2x^4 - 2x - 1 = 0$ の実数解はすべて無理数である.